

不当解雇を撤回
安全・安心のJALを

JAL不当解雇撤回ニュース

No 015号 2011.04.16
発行:JAL解雇撤回国民共闘事務局
連絡先:航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.phenix.or.jp/kkk/>

共同を広げ、不当解雇も退職強要も許さない!!

人間の尊厳を踏みにじる乱暴な解雇に退職強要。こんな横暴は絶対に許さない! 4月14日、「許すな! 乱暴な解雇・退職強要 声を上げよう 4.14集会」が開かれました。会場は1000名の参加者でいっぱい。JAL不当解雇撤回争議団も団を挙げて参加。ナショナルセンターの違いをこえて不当解雇や退職強要に反撃する共同を広げ「必ず撤回させる」と言う決意を固め合いました。



【写真】1000名の参加者で埋め尽くされた会場。集会は松平さんのトランペット演奏で開会(右上左)、開会のあいさつをJMIUの生熊委員長(右上右)が、主催者あいさつを新聞労連の東海林委員長(生熊委員長の下)が行った。

乱暴な解雇を許すな! =日航、社会保険庁の争議団が訴え



集会に先立ち、17:00から池袋駅頭で宣伝行動を実施(左写真)。ビラには日航の「子会社潰し・全員解雇」と闘っている日東整の仲間も参加しました。集会では、訴えのトップを切ってJAL不当解雇撤回争議団が登壇。内田(客室乗務員)団長は、

集会に先立ち、17:00から池袋駅頭で宣伝行動を実施(左写真)。ビラには日航の「子会社潰し・全員解雇」と闘

3月11の裁判で自らが行った意見陳述を紹介し、「必ず雇用と安全を守る」と決意表明。山口(運航乗員)団長は「JALと東電には共通点がある」

「物言えぬ職場は安全を脅かす」と述べ、不当解雇撤回の決意を表明しました。

社会保険庁の525人もの不当解雇と闘っている全厚生の中本さん(右写真の左)は「年金業務を継承し





【写真】壇上に勢ぞろいしたJAL 不当解雇撤回争議団のみなさん。訴えをしているのは山口(パイロット)団長

ながらなぜ解雇か」「安心できる年金業務の確立には、経験と専門性をもった職員が必要」だと

述べ、国による不当解雇を糾弾。「一層の支援を」と訴えました。

人権無視の退職強要を許すな！=ブルームバーグ、日本IBMの争議団が訴え

米国の通信社ブルームバーグの松井さん(左写



真)は、首を切りたい社員に無理な課題=業績改善計画(PIP)を押し付け、能力不足を仕立て上げて首切をする異常な会社対応を告発。「PIP解雇の日本

への波及に歯止めをかけたい」と訴えました。

成果主義に基づく相対評価で、下位15%の社員を対象にした退職強要と闘っているJMIU日本IBM支部の仲間は、寸劇で退職を迫る面談を再現。「あなたの活躍する場所はここにはない」「今辞めれば再就職支援プログラムを受けら

れるが、今後はなくなるかも知れない」「今までと解雇もありうる」等々と退職を強要。なんと、JALと瓜二つ。IBMの大岡支部委員長は「退職強要の差止め裁判と損害賠償裁判に対する大きな支援を」と訴えました。

集会には合計24の争議団が参加。司会者より、参加した全争議団の紹介が行われ、会場は連帯の拍手に包まれました。



【写真】IBMの退職強要を舞台で再現

声を上げ共同して労働の尊厳を取り戻そう！

集会は“不当な解雇と退職強要を告発する



【写真】宮垣国公労連委員長の音頭で頑張ろう三唱

とともに「私たちは沈黙しません。人間らしく働くこと、人間らしく生活すること、この当たり前の労働の尊厳を取り戻すため、これからも声を上げ、さらに強めていきます。本集会の成功を

起点に、産別・ナショナルセンターの違いをこえ、乱暴な解雇・退職強要に反撃する共同を広げていこうではありませんか」と呼び掛けるアピールを満場の拍手で採択しました。



【写真】上:集会アピールを提案するCCU 斎藤さん。右:閉会の挨拶をする近村航空連議長



国公労連、新聞労連、JMIU、航空連は、4月18日、集会決議を踏まえ、日本航空、社会保険庁、日本IBM、ブルームバーグに要請行動を行います。